

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	えびす夙川		
○保護者評価実施期間	2024年11月26日		～ 2024年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	2025年2月4日		～ 2025年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基本的な環境整備、体制整備	さまざまな価値観や「当たり前」感がある中で、共通して不快ではない環境づくりに心がけています。特に臭気や光、温度、ほこりや掲示物など、刺激として敏感に感じられる方がいると想定して、「清潔」な環境を維持するようにしています。	床面の硬さやゴミの処分方法など、職員にとっても安心して勤務を継続できる環境を両立できるようにさらに充実を図りたいと考えています。
2	適切な支援の提供	各クラス別に担当者が専任で任命され、参加者の状況や前回参加時の様子、支援者間での検討内容を踏まえて、企画準備を重ねています。また職員によって経験値やスキルが違う中、できる限り研修情報等を共有し研鑽の機会を積極的に今後もつづけていきます。	保護者との協議内容や情報、他機関連携による情報などについての共有が一部の職員に留まっていることがあり、それについては、今後全職員と共有ができるように努めます。
3	保護者への説明	契約時や環境や体制の変更などについては、その都度、必要な内容を文書で詳細にお知らせするように努めています。特に契約時には十分に説明を実施し不透明点を明らかにしていただけるように時間を確保しています。	HUGというシステムを利用し、情報や連絡のツールとしていますが、すべての保護者が使いやすい環境とは言い難く、トラブルや不備がある場合の対応が不十分であるため、それに寄り過ぎず目的を再確認し環境を整備していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者向けの支援	2024年度においては、体制の不足等により、またコロナ後に中断した以降、これまで実施していた保護者会を企画実施することができませんでした。またそれを必要とする保護者や職員の声に十分に答えることができなかった管理体制があった捉えています。	2025年度は必ず保護者や家族向け企画を実施します。また保護者とのやり取り内容の職員への共有が文書だけとなることがあり、全職員へ十分な共有がなされていませんでした。文書での周知はもちろんミーティング等での周知徹底や要約した内容の確認環境など、工夫も実施します
2	地域とのつながり	事業所の活動として、地域のお子さん方と協同の企画などをあまり積極的に実施してきませんでした。また保護者からの希望もあまりないと捉えていました。	広く地域と捉えて、これまでのように学生ボランティアや実習生の積極的な受入れ、地域のベーカーリーとの協働企画などの実績を踏まえて、よりそれを継続、発展させていくようにします。
3	非常時の対応周知	通所かつ短時間の利用となることが多いことから、非常時の対応について義務化までは優先順位が高くなかったのが、経営者の実際であるというのが現実でした。	連絡会での防災研修の実施や震災から30年という節目などの契機を無駄にせず、義務化も活かしてさまざまな非常時への対策を企画し、それらの一つ一つを更新していくように努めます。